

2018年度（平成30年度）  
第2回福山市環境審議会 議事概要（案）

1 日 時

2018年（平成30年）10月15日（月）14：00～15：30

2 場 所

福山市役所 本庁舎6階 60会議室

3 出席委員

堤副会長，青山委員，栗田委員，園尾委員，寺澤委員，中尾委員，原田委員，  
平田委員，藤原委員，村井委員

4 議 事

- (1) 第二次福山市環境基本計画の策定について
- (2) その他

5 議事要旨

- 事務局より，委員定数の半数以上が出席していることが確認された。
- 事務局より，会議は公開で行われることが報告された。
- 事務局より，配布資料に基づき，福山市地球温暖化対策実行計画協議会で出された主な意見について説明を行った。
- 事務局より，第二次福山市環境基本計画（素案）について，説明した後，審議を行った。

（意見の概要）

**基本施策について**

＜基本目標1 低炭素社会の構築（気候変動対策）＞

- 2030年度の削減目標8.2%との設定について，他市と比べると削減目標が低いと思われるが，その主な理由は。  
⇒産業構造が各市町で異なることが影響している。倉敷市や大分市等，産業構造が類似している自治体については，概ね同じような中期目標になっている。
- 産業部門の構成比が約9割を占める産業部門（製造業）の部門別削減目標が15%削減になっているのに対し，全体の削減目標が8.2%となっている。理解しにくいのが，これは出荷額が増加するためと理解して良いか。  
⇒今後，産業部門の出荷額が増えると予測されるためである。記載方法を工夫する。
- CO<sub>2</sub>排出量としては鉄鋼関係が多いが，製鉄所の目標値はあるか。  
⇒製鉄業も含めて，産業部門というくくりの中で，15%削減という目標を設定している。

○大企業の（温室効果ガス排出量削減）の取組が確実に実施されているかどうか、検証はどうするのか。

⇒事業者ごとのCO<sub>2</sub>排出量が開示できる制度を活用し、検証していきたいと考えている。

○低炭素型のまちづくりの推進の中に、渋滞対策の（今の流通を効率良くするという）切り口は考えているか。

⇒計画の中に渋滞緩和の施策は位置付けていない。

### ＜基本目標2 循環型社会の構築＞

○17 ページの環境指標にリサイクル率があり、2023 年度（目標年度）では 45%と記載されているが、RDF 事業の終了後、リサイクル率が低下するのではないか。

⇒RDF 事業終了後、リサイクル率があまり上がらないと想定される。今後、リサイクル率向上のため、施策を検討していく。

### ＜基本目標3 地域環境の保全＞

○芦田川の水質は現在どのような状況か。また、芦田川の水質改善に関する施策はどのようなになっているのか。

⇒芦田川の水質は改善傾向にあり、芦田川流域に関する測定地点 8 か所のうち、7 か所で環境基準を達成している。

⇒23 ページに（水質環境の保全に関する）施策を位置付けており、環境指標に河川の環境基準達成率を掲げている。現計画では芦田川の水質改善を重点プロジェクトに位置付けていたが、最近の達成状況を踏まえ、重点プロジェクトを見直している。

○大気汚染対策のうち、PM2.5 や光化学オキシダントの問題は難しいと思う。

○緑化の推進について、市民、事業者参加型の取組を考えていただきたい。

⇒26 ページに緑化の推進を位置づけているが、事業所や住宅地の緑化を促進していく。

### ＜基本目標5 持続可能な社会を担う人づくり＞

○31 ページの環境指標に「環境問題に関心を持っている人の割合」とあるが、どのように把握するのか。

⇒現状の数値は、アンケート調査の結果を記載している。2023 年度（目標年度）にも、再度、アンケート調査を実施する予定である。

## 重点プロジェクトについて

### ＜豊かな森林再生プロジェクト＞

○市として林業の従事者を増やす考えなのか。また、間伐材等のバイオマス資源を利用するなどの構想はあるのか。

⇒研究が必要な分野であるが、関係者と意見交換しながらバイオマス利用について検討していきたい。

○庄原市においても、所有者の意向と補助金の関係で、整備が難しい森林が多い。

○森林管理システムが空き家対策に活用することは可能か。

⇒可能かどうかも含めて検討を行う。

#### ＜将来を見据えたごみ処理体制構築プロジェクト＞

○廃棄物の適正管理についてエネルギーの活用とあるが、廃棄物を燃やして発電するというイメージか。

⇒次期ごみ処理施設については、廃棄物を燃やして発電することを考えている。また、蒸気や温水の利用について、近隣の事業者に対して、ニーズ調査を行っているところ。

○世界的に海洋プラスチック憲章が成立し、次々署名する国が出ているが、プラスチックが自然界の生物などに大きな影響を与えている。市民へのプラスチック削減に対する意識付けが必要ではないか。

⇒プラスチック問題がクローズアップされている事は認識している。重点プロジェクトの事業として掲げており、削減に向けて対策を行いたいと考えている。

#### 計画の進行管理について

○計画の進行管理は、どのように評価、分析をしていくのか。

⇒現在は、「福山の環境」という冊子の中で、施策の進捗状況を報告している。次期計画においても、報告書を作成し、公表していきたいと思っている。

○地域別の施策などは、細かく評価すると分かりやすいのではないか。

以 上